

首相「領土めぐる新時代」と訓示 海自観艦式で旧海軍意識

(2012/10/14 17:23 共同通信)

海上自衛隊観艦式で訓示を述べる野田首相。左から3人目は森本防衛相＝14日午後、神奈川県沖の相模湾

野田佳彦首相は14日、海上自衛隊観艦式の訓示で「安全保障環境はかつてなく厳しさを増し、領土や主権をめぐるさまざまな出来事が起きている。新たな時代を迎え、自衛隊の使命は重要性を増している」と強調し「諸君が一層奮励努力することを切に望む」と締めくくった。

「一層奮励努力」は、日本海海戦で掲げられたことで知られる「Z旗」で使われた表現。訓示では旧海軍兵学校の「五省」も読み上げた。沖縄県・尖閣諸島や島根県・竹島をめぐる中国、韓国との関係が悪化する中での、旧海軍を意識した首相の訓示は論議を呼びそうだ。

<http://www.47news.jp/CN/201210/CN2012101401001298.html>

五省出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

五省（ごせい）とは、旧大日本帝国海軍の士官学校である海軍兵学校（現在は海上自衛隊幹部候補生学校）において、生徒がその日の行いを反省するために自らへ発していた5つの問いかけのこと。

一、至誠（しせい）に悖（もと）る勿（な）かりしか

（真心に反する点はなかったか）

一、言行に恥づる勿かりしか

（言行不一致な点はなかったか）

一、氣力に缺（か）くる勿かりしか

（精神力は十分であったか）

一、努力に憾（うら）み勿かりしか

（十分に努力したか）

一、不精に亘（わた）る勿かりしか

（最後まで十分に取り組んだか）

概説 [編集] 考案者は、当時、兵学校校長であった松下元少将。

今日では帝国海軍の精神を象徴する標語であるかのように語られることがあるが、五省が兵学校

校舎に掲げられるようになったのは国内の軍国主義的色合いが濃くなり始めた 1932 年（昭和 7 年）からであり、その採用期間は海軍 70 余年の中でも末期の 10 数年間に過ぎない。古参の海軍軍人の中には、文語調箇条書きの五省を生徒に唱和させることについて、「(リベラリズムと柔軟性を重んじた) 帝国海軍の伝統になじまない」として不快感を表明する者も少なからず存在した。

しかし、一方で、太平洋戦争後に日本を占領したアメリカ海軍の幹部が五省の精神に感銘を受け、英訳文をアナポリス海軍兵学校に掲示したり、日本国内でも、海上自衛隊が日々の行動を自省する標語として用いたりしている。現在、海軍兵学校の後継にあたる海上自衛隊幹部候補生学校及び海上自衛隊第 1 術科学校では、五省が旧海軍の伝統として継承されている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%94%E7%9C%81>